あし

新美南吉

青空文庫

二ひきの馬が、まどのところでぐうるぐうるとひるねをしていました。

すると、すずしい風がでてきたので、一ぴきがくしゃめをしてめをさましました。

ところが、あとあしがいっぽんしびれていたので、よろよろとよろけてしまいました。

「おやおや。」

そのあしに力をいれようとしても、さっぱりはいりません。

そこでともだちの馬をゆりおこしました。

「たいへんだ、あとあしをいっぽん、だれかにぬすまれてしまった。」

「だって、ちゃんとついてるじゃないか。」

「いやこれはちがう。だれかのあしだ。」

「どうして。」

「ぼくの思うままに歩かないもの。ちょっとこのあしをけとばしてくれ。」

そこで、ともだちの馬は、ひづめでそのあしをぽぉんとけとばしました。

「やっぱりこれはぼくのじゃない、いたくないもの。ぼくのあしならいたいはずだ。よし、はやく、ぬすまれたあしをみつけてこよう。」

そこで、その馬はよろよろと歩いてゆきました。

「やァ、椅子(いす)がある。椅子がぼくのあしをぬすんだのかもしれない。よし、けとばしてやろう、ぼくのあしならいたいはずだ。」

馬はかたあしで、椅子のあしをけとばしました。

椅子は、いたいとも、なんともいわないで、こわれてしまいました。

馬は、テーブルのあしや、ベッドのあしを、ぽんぽんけってまわりました。けれど、どれもいたいといわなくて、こわれてしまいました。

いくらさがしてもぬすまれたあしはありません。

「ひょっとしたら、あいつがとったのかもしれない。」

と馬は思いました。

そこで、馬はともだちの馬のところへかえってきました。そして、すきをみて、ともだちのあとあしをぽぉんとけとばしました。

するとともだちは、

「いたいッ。」

とさけんでとびあがりました。

「そぉらみろ、それがぼくのあしだ。きみだろう、ぬすんだのは。」

「このとんまめが。」

ともだちの馬は力いっぱいけかえしました。

しびれがもうなおっていたので、その馬も、

「いたいッ。」

と、とびあがりました。

そして、やっとのことで、じぶんのあしはぬすまれたのではなく、しびれていたのだとわかりました。

青空文庫情報

底本：「ごんぎつね　新美南吉童話作品集1」てのり文庫、大日本図書
　　1988（昭和63）年7月8日第1刷発行
底本の親本：「校定　新美南吉全集」大日本図書
入力：めいこ
校正：もりみつじゅんじ
2002年12月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

あし

新美南吉

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/